資料プリント　北陸地方の工業②「福井県鯖江市のメガネフレーム」

（１） 鯖江のメガネフレームの歴史

③ 鯖江のメガネフレーム製造のはじまり

鯖江のメガネフレーム製造は、明治 38 年(1905)に増永五左衛門が、雪深く冬に農業ができないこの地域の副業として、少ない初期投資で現金収入が得られるメガネフレーム作りをはじめました。当時、メガネフレーム作りが盛んだった大阪や東京から職人を呼び、弟子にメガネの製造技術を伝えたことがはじまりであるといわれています。当初は、「帳場（ちょうば）」とよばれる職人グループごとにメガネが作られていました。その帳場ごとに職人が競い、腕を磨くことで分業、独立が進み、鯖江は街全体が一つの「メガネ工場」といえるような一大メガネ産地になりました。

写真：明治初期の眼鏡枠作り作業場

④ 戦後の鯖江のメガネフレームの成長

戦後の高度経済成長の中でメガネの需要も急増し、産地として大きく成長しました。製造の自動化などにより生産効率を追求すると共に、品質の向上と技術開発に力を注ぎ、その結果、昭和 50 年代の終わりごろに、世界で初めてチタン金属を用いたメガネフレームの製造技術の確立に成功しました。軽量かつ耐久性に優れるチタンは、金属アレルギーを起こしにくい素材であることから、人体に優しいメガネとして世界に広まっています。

（２） 現在の鯖江市のメガネフレーム

現在、福井県は「福井市」や「鯖江市」を中心に日本製メガネフレームの約 95%を生産し、世界最高品質のメガネを全国・世界へ届け続けています。最近では、東アジア地域で作られた低価格なメガネ製品が世界規模で増えていますが、鯖江のメガネフレームは、高品質なメガネを作り続けることで、世界を代表するメガネ産地であり続けることを目指しています。

写真①現在の鯖江のメガネ工場の様子。精巧な機械により、高品質なメガネを作り続ける。

写真②仕上げにふちを磨く工程は、職人の手作業である。

用語解説

帳場：本来は、店などで会計をする机。鯖江ではその机を使ってメガネフレーム作りをはじめた。

チタン：軽くて強度があり、さびなどへの耐久性が強い金属